

竹内 好 (たけうち・よしみ) 1910~1977

評論家・中国文学者

~ ロマン的・民衆的ナショナリスト ~

出生 1910年(明治43)10月2日、長野県南佐久郡臼田町(佐久市等と合併協議中)に生まれる。税務署員だった父武一の転勤により3歳で東京に移住。その後、父が事業家に転ずるも成功せず、苦しい家計の中で育つ。

履歴 1931年、大阪高校から東京帝大文学部支那哲学・支那文学科に入学。終生の友となる武田泰淳と知り合う。在学中に初めて中国を旅行、中国文学に取り組む決意をする。卒業を前に武田らと中国文学研究会を結成、卒業後もその中心として活動を続けた。1943年、陸軍に召集され中国に出征、大陸で敗戦を迎える。戦後は、慶応大学講師、東京都立大学教授等を務めながら、評論家としても活発に論文を発表。安保改定反対運動に積極的にに関わり、1960年5月には衆院の安保批准強行採決に抗議して都立大教授を辞職した。その後は「中国の会」に拠り、雑誌『中国』を10年にわたり発行。晩年は魯迅作品の個人訳に精力を傾けた。



筑摩書房提供

事績 現代中国文学、殊に魯迅研究を原点として評論活動を展開した。それは、近代化に立ち遅れ苦闘する現代中国を対象としつつ、対比的に日本の近代を批判的に検討するものだった。ここから民族の独立や思想の土着性を重視する竹内独自の思想が生まれ、近代日本思想史の検討や国民文学論の提起、さらに戦後日本の政治や社会への発言として結実した。一貫して反権力的な立場にあったが、いわゆる進歩的文化人の「革新」性とは明確に一線を画した。また、中国への罪責感と熱い思いを終生持ち続けたが、その政治指導者に追従するようなことはなく、文革期には沈黙を守った。

評価 グローバル化の中で経済発展を続ける現在の中国は、竹内の期待した姿とは程遠いだろう。総じて竹内の思想家としての予測はあまり的中していない。しかし、民族や民衆に重きを置く、その思想の質は今日のグローバリズムに対する一つの反論として意義を失っていないといえる。また、若き日の中国文学研究会をはじめ、思想の科学研究会、魯迅友の会、中国の会など様々な団体で中心的役割を果たし、多くの人に影響を与え、その廉直で誠実な人柄が各方面から慕われた。

代表作

『魯迅』 戦時下に刊行された最初の著書。明日の生命がわからない時期に「遺書」に近い気持ちで書いたという。原稿の完成直後に召集令状が届き、竹内は校正と跋文を武田泰淳に託して出征した。処女作というにとどまらず、戦中の日本文学の数少ない収穫の一つとされる。全集第1巻に収録。

『国民文学論』 1954年刊行の評論集。タイトルは評論集のためのもので、同名の論文があるわけではない。国民文学の提唱は、竹内の日本近代及び近代主義への批判の一環をなし、民族の伝統に根ざした独自の文学作品の創造を訴えるものだったが、実現には至らなかった。全集第7巻に収録。

「近代の超克」 1959年発表の長編評論。太平洋戦争を根拠づける理念だった“近代の超克”を中心に当時の知識人の思想や発言を詳細に分析する。「大東亜戦争は、植民地侵略戦争であると同時に、対帝国主義の戦争でもあった」という竹内自身の戦争観を示すことばで有名。全集第8巻に収録。

キーワード 近代主義批判 西欧近代を価値基準として日本やアジアを見る思想を、マルクス主義を含めて、竹内は近代主義と呼び、民族や伝統の固有性を軽視する欠陥があるとした。近代日本の思想と文学への反省から、竹内は戦後の思想状況においても共産党や進歩的知識人をこの観点から批判した。

比喩 中高年スポーツが今ほど盛んでなかった時代、竹内は50歳を過ぎてからスキーを始めた。捻挫や骨折も経験したが、本人は「老人スキー」と称し、橋川文三によれば相当な腕前だったという。

最期 1977年(昭和52)3月3日、食道がんのため武蔵野市の森本病院で死去。享年66歳。

Great Works 34

竹内好全集 全17巻 筑摩書房 1980~82 <081.8 / 82>

解題 竹内の没後、「著者の執筆し、公表した文章をすべて収録する」方針で編纂された。翻訳・講演・対談・座談会等は原則として収録されていない。各巻の構成は、単行本として刊行された著作をそのまま収録したものと、単行本及び雑誌等の文章をテーマによって集成し、本全集としてタイトルを付けたものから成る。なお、死の直前まで改訳・新訳に心血を注いだ魯迅の個人訳は、『魯迅文集』全6巻(筑摩書房 1976~78 928.7 / 6)として刊行されている。

内容

- 第1巻 魯迅 [日本評論社 1944年 底本は1961年の未来社版] 魯迅雑記 (1946 1956) [同名の単行本のほか雑誌等に発表の魯迅関係の文章を編年体で集成]
- 第2巻 魯迅入門 [東洋書館 1953年] 世界文学はんどぶつく・魯迅(抄) [世界評論社 1948年 『魯迅入門』の原型。『魯迅入門』で削除された部分を収録] 魯迅雑記 (1956 1973)
- 第3巻 現代中国の文学 [20世紀の中国文学と作家についての解説・書評等を集成] 中国文学と日本 [日本における中国文学の研究・翻訳に関する文章を集成] 魯迅雑記 (1973 1977)
- 第4巻 現代中国論 [河出書房 1951年] 中国の人民革命 [中華人民共和国成立期を扱った論文・書評等を集成] 中国革命と日本 [中国革命と明治維新を対比した論文、日中関係に関する図書の書評等を集成]
- 第5巻 方法としてのアジア [アジアのナショナリズムに関する論文を集成。同名の単行本(創樹社 1978年)とは別もの] 中国・インド・朝鮮 [各地域にかかわる文章・書評等を集成] 毛沢東 [「評伝毛沢東」(1951年)を中心とする毛沢東関係の論文・解説等を集成]
- 第6巻 日本イデオロギイ [筑摩書房 1952年 戦後の政治情勢下の知識人論] 民衆・知識人・官僚主義 [『日本イデオロギイ』と同主題の文章を集成] 国の独立と思想 [1950年代の時評的文章を集成] *当館欠本
- 第7巻 国民文学論 [東京大学出版会 1954年] 近代日本の文学 [日本の近代文学を論じた文章を集成] 表現について [言葉や表現についての随想的文章を集成]
- 第8巻 近代日本の思想 [「近代の超克」(1959年)を中心とする近代日本の思想・思想家論を集成] 人間の解放と教育 [教育や教師を論じた文章、同和教育に関する講演等を集成]
- 第9巻 不服従の遺産 [筑摩書房 1961年 60年安保反対運動をめぐる評論集] 一九六〇年代 [1950年代末から60年代にかけての時評的文章を集成]
- 第10巻 中国を知るために 第1集～第3集(上) [勁草書房 1967～73年]
- 第11巻 中国を知るために 第3集(下) [勁草書房 1973年] 国交回復の条件 [日中国交問題についての文章を集成]
- 第12巻 作家について [同時代の文学者についての随想を集成] 書物について [書評・推薦文等を集成]
- 第13巻 自画像 わが著作 魯迅友の会・中国の会 [各テーマ別に小文を編年体で集成]
- 第14巻 戦前戦中集 [単行本『魯迅』以外の戦前戦中に発表された文章を集成]
- 第15巻 日記(上) [1932年、1934～35年、1937～40年、1946～47年の日記]
- 第16巻 日記(下) [1948年、1960～64年の日記。一部は『転形期』(創樹社 1974年)として出版された]
- 第17巻 補遺 初期習作 著作目録 年譜 人名索引

参考文献 ～この人をもっと知るために～

<図書>

- 📖 竹内好 ある方法の伝記(シリーズ民間日本学者 40) / 鶴見俊輔著
リポポート 1995年 268,10p <910.26DD / 1438> 資料番号 20733689
- 📖 竹内好の文学と思想 / 中川幾郎著
オリジン出版センター 1985年 265p <289.1T / 2299> 資料番号 12363446
- 📖 追悼竹内好 / 魯迅友の会「竹内好追悼号」編集委員会編
魯迅友の会 1978年 291p <289.1K / 1466> 資料番号 10535185
- 📖 竹内好論 亜細亜への反歌 / 菅孝行著
三一書房 1976年 273p <H289 / T43> 資料番号 70442587
- 📖 竹内好論 革命と沈黙 / 松本健一著
第三文明社 1975年 278p <H289 / T43> 資料番号 70442595
- 📖 竹内好著作ノート / 立間祥介編著
図書新聞社 1965年 197p <027.3 / 103> 資料番号 21351176

<図書(部分)>

- 📖 「血められた民族主義」の記憶 竹内好 / 小熊英二著 (<民主>と<愛国>)
新曜社 2002年 p394 - 446 <121.6MM / 175> 資料番号 21561758

<雑誌論文等>

- 📖 戦後史のなかのアジア主義 竹内好を中心に / 上村希美雄著
歴史学研究(青木書店) 561 [1986.11] <Z205 / 4>
- 📖 竹内好研究 *論文14編、追想文18編
思想の科学(思想の科学社) 91(第6次、通巻299号) [1978.5] <Z051 / 14>